

# 「岩手県の精神保健医療分野における看護師の機能充実に関する研究」

樋口日出子（看護学部、准教授）、佐藤史教（看護学部、講師）、木村怜（看護学部、助手）

## <要旨>

本研究では、岩手県の精神保健医療分野における看護師の機能充実に向けた研修会を実施し、その効果を検討することを目的とした。その結果、岩手県内の精神科病院に勤務する看護師 34 名の参加が得られ、研修に対して概ね高い満足度が得られていた。

## 1 研究の概要

近年、精神科医療は、入院期間の短縮や病床の削減など大きな変革期にあり、精神科医療における看護師もより高度な知識・技術が求められている。しかし、岩手県は県土が広く、看護系大学も本学のみであることから、現任者教育は十分ではない。そこで、本研究は、岩手県の精神保健医療分野における看護師の機能充実に向けた研修会を実施し、その効果を検討することを目的とした。

## 2 研究の内容

対象：岩手県内の精神科病院に勤務する看護師

研修会開催日：宮古市－11月23日

盛岡市－11月25日

方法：平成28年度は看護研究に関する研修会を盛岡市と宮古市において開催した。本県は県土が広く、時に沿岸部から内陸までの移動時間を長時間要することから、内陸の盛岡市の他、沿岸の宮古市においても研修会を開催することとし、内容は同一とした。研修会の講師は研究者が務めた。

研修内容：看護研究の基礎に関することと、臨床の研究として行われることの多い事例研究に関することとし、研修時間は3時間半とした。

調査内容：看護師の機能充実に対する効果を検討するため、参加者にアンケート調査を実施した。アンケート内容は、研修会の満足度(0:全く満足できなかった～100:とても満足できた)とその理由、感想とした。

分析方法：満足度は単純集計を行った。感想は、意味内容でコード化し、コードについて相違点、共通点を吟味し、分類、カテゴリー化した。

倫理的配慮：対象者に口頭と文書にて研究の目的と方法を説明し、アンケート提出の自由参加を保障し、協力の可否により不利益が生じないことを説明した。また、氏名の記載欄を設けないことで、匿名性の確保に努め、対象者のアンケート提出をもって同意を得た。

## 3 これまで得られた研究の成果

参加者は盛岡市会場が24名、宮古市会場が10名であった。そのうち、33名(回収率：97.1%)から回答が得られた。各会場とも同一内容で研修を行ったことから、

全てのアンケートをあわせて分析を行った。

1) 満足度は90.2±10.2であり、高い満足度が得られていた。

2) その理由

「わかりやすくて良かった」「研究のはじめに、目的、倫理的配慮など具体的なところまで例を挙げながら説明してもらいわかりやすかった」「言葉をよく調べることの重要さがわかった」「看護研究の基礎から文献検索のコツなど学ぶことができた」などが挙げられた。

3) 研修会の感想（自由記載）

研修会の感想では、[実践能力の向上][意欲の向上][良い雰囲気の研修]に分類された。

[実践能力の向上]は、「今後役立ちそう」「今後に役立つ有意義な講義だった」と対象者が取り組んでいる看護研究に活かすことのできる研修内容であったと考える。

[意欲の向上]は、「常に研究の視点を持っていこうと思った」「がんばって看護研究をしなければと改めて思った」など、看護実践を行う上での意欲の向上につながったと考える。

[良い雰囲気の研修]は、「楽しい雰囲気での研修でよかった」「小人数でアットホームな勉強会だったので、緊張せずに受講できた」「とても楽しい研修だった」など、良い雰囲気の中で学ぶことができていた。

一方で、「もう少し早めに開催してほしい」「計画書を持参し、アドバイスを受けたい」との意見も聞かれたことから、開催時期や内容の検討が必要であると考えられる。



図：研修会の様子

## 4 今後の具体的な展開

参加者が多いことから、看護研究の研修に対するニーズは高く、今後も継続していくことで本県の看護師の看護研究を実践する能力を高めることができると考える。

また、さらなるニーズ調査を行い、本県における看護師の機能充実につなげていきたい。